

由良川の歴史を訪ねて 1

暴れ川の異名をもつ由良川の水害

由良川流域は古来より洪水はん濫が発生しやすく、ひとたびはん濫すれば水が引くのに時間がかかる暴れ川でした。大雨となれば必ずと言っていいほど大洪水が発生し、古文書には寛永12年(1635年)から慶応4年(1868年)までの233年間に、洪水の被害が106回記録されています。人々はそのたびに復興を遂げ、治水に力を注いできました。

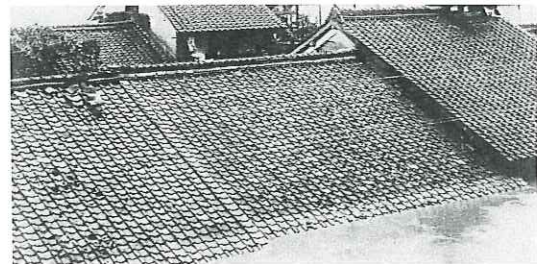
■明治29年の水害

明治29年(1896年)8月30日の朝から降り始めた雨は、夕方に豪雨となり、由良川は急激に増水し町や民家に襲いかかりました。最高水位は福知山で7.9メートルに達し、各所で堤防が決壊。死者200名、家屋の流失・全壊371戸、被害は由良川全域に及びました。



■明治40年の水害

明治40年(1907年)8月23日の午後から降り出した雨は、26日未明まで続き、空前の大洪水となりました。下流の河守での総雨量は536.2ミリ、最高水位は15メートルを記録し、福知山では、明治29年につづき音無瀬橋が流出。堤防も4ヶ所が決壊しました。



■昭和28年の水害

昭和28年(1953年)9月25日、台風第13号によるこの年3度目の洪水が発生しました。正午から夕方にかけて、由良川上流では時間雨量30～60ミリ、総雨量約500ミリに達する豪雨となり、濁流が一気に中流・下流を襲いました。由良川は戦後最高水位7.8メートル、最大流量6,500トンを記録。当時すでに建設計画が確定していた大野ダムの計画規模の変更を必要とするほどでした。



■昭和34年の水害

昭和34年(1959年)9月26日、台風第15号(伊勢湾台風)が猛威を振るいました。夕方より京都一円は台風の暴風雨圏に入り、由良川本支流が増水越流。27日朝に台風が去るまで、暗夜の避難と救助で人々は大混乱に陥りました。大江町の総雨量は169.5ミリ、最高水位12.5メートルに達しました。



引用文献「由良川 風土記」(国土交通省福知山河川国道事務所)

写真出典「由良川とともに生きる ゆらがわ写真集」(国土交通省福知山河川国道事務所)